

愛知県農林水産業の試験研究基本計画2025 取組事項一覧(最終評価)

【林業部門】

研究事項及び達成目標	最終評価		基本計画2030での取扱い	
		主な成果		取組の概要
ア 循環型林業の推進のためのスマート林業及び木材利用の推進				
(ア) ICT等を活用した森林管理・利用技術の開発				
・航空レーザ計測データを活用した溪床の安定勾配の検証	A	・レーザ計測による地形データを活用し、治山事業の溪床勾配を170点調査・取りまとめ、新たな計画勾配係数表を作成した。	終了	—
・航空レーザ計測データを活用した簡易な森林資源量評価手法の開発（1技術）	A	・レーザ計測データを活用して抽出した木材生産計画地で、より精度の高いデータを得るためのUAVによる写真撮影とその解析方法を開発した。	終了	—
・航空レーザ計測データを活用した森林簿・林分収穫予想表の作成（1技術）	A	・1983年調製の林分収穫予想表に、現地調査に基づく10年～130年までのスギ・ヒノキ352本のデータを追加し、80年生以上の高齢級に対応した新たな林分収穫予想表を作成した。	終了	—
・エリートツリー種子の効率的な生産技術の開発（1技術）	A	・エリートツリー採種木の花芽形成量を増加させるための施肥の成分や濃度、灌水頻度等の条件を明確にした。	終了	—
・ICTを活用した獣害防護柵内への侵入検知システム等の開発（1技術）	A	・獣害防護柵内に侵入したシカを早期かつ省力的に発見するため、テグスを用いた侵入検知センサーの開発と効率的な設置方法を明らかにした。	終了	—
・ドローンを活用した苗木運搬等の作業システムの改良（1技術）	A	・苗木等の運搬作業において、ドローンが生産性・経済性の面で有用であることを実証した。	終了	—

研究事項及び達成目標	最終評価		基本計画2030での取扱い	
		主な成果		取組の概要
(イ) 県産木材の利用用途の検討				
・早生樹等の材質特性の解明（1技術）	A	・早生樹のセンダンについて、曲げの強さと曲げヤング率がケヤキと同程度であったことから、家具材として活用可能であることが分かった。	終了	—
・早生樹等の利用用途の検討（1技術）	A	・早生樹のセンダンについて、家具メーカーを含む関係者に意見を聞き取り、利用用途を検討し、テーブルと椅子を製作し、使用に供した。	終了	—

研究事項及び達成目標	最終評価		基本計画2030での取扱い	
		主な成果		取組の概要
イ 森林の整備による多面的機能の発揮				
(ア) 成長の早い苗木及び花粉症対策苗木の生産・育林技術の開発				
・エリートツリーのクローン幼苗増殖技術の開発（1技術）	B	・エリートツリーの効率的な挿し木増殖として、通常の1/2の15cmの穂木の発根が良いことが分かった。また、発根率の良い6系統を選抜した。	継 続	・効率的な生産拡大方法について引き続き検討を行う。
・エリートツリー苗木の初期成長等の検証	A	・エリートツリーの試験区を設定し、植栽後の成長を調査した。	終 了	—
・早生樹の種苗生産技術の開発（1技術）	A	・マルチキャビティコンテナで、1年で冬期の先端枯損に強いコンテナ苗生産が可能であることを明らかにした。	終 了	—
・早生樹の育林技術の開発（1技術）	A	・標高・土壌・施肥量・照度・系統等の諸条件を評価した結果、標高・土壌・照度の成長への影響が大きいことが明らかとなった。	終 了	—
・コンテナ苗の生産技術の開発（1技術）	A	・スギのコンテナ苗で、セルトレイで育てた苗高12cm以上の苗を用いて6月末に移植した場合、12月までの通算1.5年で得苗率8割以上の出荷が可能であることが明らかとなった。	終 了	—
・コンテナ苗の育苗技術の開発（1技術）	A	・含水率40%になるまで乾燥させた後に灌水するサイクルを継続することで、根量が多く根株充実度の高い苗木生産ができることが明らかとなった。	終 了	—
(イ) 健全な森林育成技術の開発				
・強度間伐における施業効果の検証	B	・強度間伐の実施地を調査した結果、間伐前に比べ表面土壌の流亡が減少し、低木層の木本種が増加したことから、強度間伐の有用性が明らかになった。	継 続	・施業地における土壌流出量や下層植生等を継続調査し、施業効果の年変動の検証を行う。

研究事項及び達成目標	最終評価		基本計画2030での取扱い	
		主な成果		取組の概要
・竹林駆除技術の開発（1技術）	A	・登録農薬を竹の中に注入する駆除方法で、駆除期間を通常伐採の5～7年から3～4年に短縮できると考えられた。また、モウソウチクの場合、胸高直径が7cm以上ある竹を駆除するためには10mLの注入が必要であることが分かった。	終了	—
・早生樹等の病虫害被害軽減手法の開発（1技術）	A	・センダン植栽地で被害が大きかったゴマダラカミキリについて、カミキリが飛来する7月までには農薬を散布することが対策として有効であることが認められた。	終了	—
・作業の省力化及び安全性の向上に向けた林業機器の改良（1技術）	C	・下刈作業の省力化に向けて下刈機器の改良を機器メーカーと検討したが、改良に向けて同意が得られず、研究を取りやめた。	中止	・研究を中止した。